

# 明日への扉

No.18



Tamiko Kawahara

河原 多美子 さん

## 自然の輝きを再現する

## 感動を大隅から世界へ



花びらを<sup>ひとつひとつ</sup>表情を付けて仕上げていく。1輪作るのに4～5日、大作だと1年程かかることも。「時間はかかるが、作る工程が楽しく、仕上がった時は格別」と語る。自宅での製作は専ら深夜1時～3時。

昭和21年大始良町生まれ。昭和40年鹿屋女子高卒業。平成6年から各地の展示会にクレイフラワーを出品。作品が高く評価され、国内外で受賞多数。平成26年、考案した「ばらピンバッジ」が「ばらのまちかはや認証品」に認証。アート・ピュア カワハラ主宰。(70歳)

自然に恵まれた環境で育ち、花が大好きで、またもともと自分で美しさを表現できる作品づくりに興味がありました。本格的に習い始めたのは結婚後。主人の転勤に伴い福岡・名古屋・東京と生活の場を変えながらも、その間にフラワーアレンジや編み物など様々な手工芸の教室に通いました。

東京生活も落ち着いたら頃、吉祥寺の近鉄デパートで開かれていたクレイフラワー展を見て鳥肌が立ち、今までに無い感動を覚えました。ほどなくしてクレイフラワーを3～4年の短期間に夢中で習い、平成5年、教授の免許を取得しました。主人が転勤族だったので、転勤したら教室に通えなくなると思い、必死で勉強したのです。

海外で「神業」と評価されるクレイフラワーは日本で発展したアート。自分で色付けした樹脂粘土で、四季折々の花々を本物そっくりに繊細に表現するものです。

平成6年3月、仲間と共に東京銀座で作品展を開催したところ、同郷の方々から「地元でも見せて欲しい」と言われ、その年の10月、市役所で展示させていただきました。その反響は大きく、地元でクレイフラワーを習いたいという声が多く寄せられました。東京で主人、子ども2人と暮らしていたため大変迷いましたが、家族の応援もあ

り、翌年鹿屋で教室を開くことができました。以来東京と鹿屋を2週間ごとに往復する生活を約10年間続けました。平成16年に主人の両親の介護のため、拠点を鹿屋に移し、現在に至っています。

今年3月、桜を表現した作品が、イタリアで開かれた「日伊国交樹立150周年・古代都市プリンデジ創生芸術祭」で大賞を受賞し、作品を写真に収めたアートタイルが壁画として永久所蔵されました。これまで自問自答しながら前向きに活動が続けてきたことが受賞につながったと思っています。

経験を通して思うことは、若いうちに自分の生涯学習を見つけ、続けること。教室の受講生から「植物を立ち止まって観察するようになった」とよく聞きます。忙しい現代社会の中、何でも簡単に情報が手に入る時代ですが、物事の本質を感じ、立ち止まって見つめる姿勢は大事だと思います。

夢は大隅半島の各市町の花をクレイフラワーで製作し、お世話になった市町に贈ること。また、この夢の実現に向けながら、皆様と共に大隅の地で手工芸の作品を高めていけたらと思っています。

FMかのや(77.2MHz)  
6月27日(月)9時5分から  
河原 多美子さんが出演(予定)